



SALVATIONIST

とぎのこえ

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)

二〇二四年一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



新春号
広報版
2024
January-February
No.2864

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
力強い御業を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威光
驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

詩編 145 編 4、5 節

ときのこえ SALVATIONIST

新春号 広報版

2024 January - February

NO.2864

もくじ

- **メッセージ**
世代から世代へ
司令官 大佐 スティーブン・モーリス
……………3
- **〔連載〕聖潔の流れに立つ 第30回**
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うちに燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 …………… 4
- **集会報告**
召天者合同記念会、クリスマスの夕べ
…………… 5
司令官及び軍国女性部会長による
東京東海道連隊 東海道地区キャンペーン
…………… 6
西日本連隊 中国四国九州地区キャンペーン
……………7
- **各地のニュース !!**
京都小隊、大森小隊、前橋小隊、広島小隊
…………… 8
西新井小隊、士官志願者部・霊的生活成長部、女性部
…………… 9
- **YP (青少年部)・ファミリーニュース**
名古屋小隊、uniTed2023
- **各地のニュース !!**
医療従事者交友会、京橋小隊 …………… 10
- **災害対策室リポート**
第二回災害対策室講習会 ……………11
- **証言**
清瀬小隊
清瀬小隊 80周年にあたり 伊藤和穂書記
……………12
- **〈連載・第24回〉**
神の呼びかけ～神の民となるために～
(9) この世で生きることへの呼びかけ
……………13
- **救世軍見解表明**
社会道德に対する救世軍の立場
第10回「腐敗」(2)
第11回「死刑」(1) ……………14
- **救世軍公報、公告**
- **世界の救世軍、幹部士官会、ジャパン・スタッフ・バンド** ……………15
- **各地のニュース !!**
上野小隊、士官学校、杉並小隊
……………16

2024年 救世軍テーマソング

「永遠にあなたと」

作詞・作曲：長沢崇史

ただひとつのこと 私は願う
あなたのみそばで 永遠に生きること
永遠に 永遠に あなたと生きる
この口は歌い続ける あなたの愛を



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：昨年12月、
遠軽小隊での社会鍋初日
のひとこま

メッセージ

世代から世代へ

司令官 大佐 ステイブ・モーリス

「人々が、代々に御業を
ほめたたえ 力強い御業
を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威
光 驚くべき御業の数々
をわたしは歌います。」

(詩編145・4、5)

新年明けましておめでと
うございます。『ときのこと
え』の読者の皆様が、希望
と愛に満ちた新年を迎えら
れますよう心から祈ります。
神がこの一年を通して皆様
と共におられますように。

私の両親は救世軍の士官
でした。妻の両親は生涯に
わたって忠実な救世軍の兵
士でした。私たちは幼い頃
から救世軍の一員として育
ち、それぞれがイエスを個
人的に救い主として受け入
れる時をもちました。しか
しまた、イエスを信じイエ
スに従う周囲の人々からも
励ましを受けて育ってしま
した。

経験と生き方を土台とする
こと、また、子どもたちも
キリストを信じて生きるよ
う励ますことを願ってしま
した。長女のアンジェラは
いま三十歳になろうとして
いますが、夫と一緒に地元
の小隊の兵士として活発に
活動しています。メディア
チームで奉仕しながら、十
六人ほどのティーンエー
ジャーのためにバイブルスタ
ディ(聖書の学び)を導いて
います。息子のアンドリュ
ーは現役のトランペット演
奏家ですが、日曜の朝はい
つも救世軍のバンドで演奏
しています。子どもたちは、
大人になって彼ら自身の決
断としてイエスに従うこと
を選びました。私たちは両
親としてそのことをとても
感謝しています。

忙な生活を
送っている
人がいます。
今の時代、
子どもたち
は独立する
傾向が強く、
親から霊的
な遺産を受
け継ぐ人は少数で、親と同
じ生き方を選ぶ次の世代は
少なくなっています。



このような状況をふまえ、
多くの祈りと聖書の学びを
重ねた結果、私たちは二〇
二四年の日本軍国のテーマ
(標語)を「世代から世代
へ」とするよう導かれまし
た。私たち一人ひとりが、キ
リストのからだなる教会の
枝である救世軍のメンバー
として、次の世代を育成す
るために行動することが求
められています。私たちは
みな、自分をキリストに導
いてくれた誰かの感化や影
響があるはずで、



教会の初期の時代には、
イエスのメッセージを伝え
る唯一の
方法は、
世代から
世代へと
口頭で言
葉を伝え
ることで
した。今
日の現代
的なコミ
ュニケー
ションの
ツールに
慣れきつ
た私たち
は、人と
人とのつ
ながりを
通して伝える機会をないが
しろにすることがあるので
はないでしょうか。私たち
は自分が経験したイエスの
救いの恵みを、自分が知る
誰かに言葉で伝えることが
できます。そのようにして
イエスの感化は世代から世
代へ及んでいくのです。

た。これを米国南部軍国の
音楽部長がブラスバンド用
にアレンジしてくれました。
このテーマソングが、救世
軍の中の世代間のギャップ
を埋めるために役立つこと
を期待しています。このテ
ーマソングは青年デーなど
ではギターやワッシュンバ
ンドで歌うことができます
し、ブラスバンドの伴奏で
年配の戦友が歌うこともで
きます。

今年このテーマは、過去に
敬意を表すとともに、より
現代的で若々しい礼拝のス
タイルに移行する機会を与
えてくれるものとなるでし
ょう。これまで救世軍の土
台を築いてくださった方々
に敬意を表しながら、より
現代的で適切な今日の救世
軍を成長させるために、若
い世代が正当な位置を占め
られるよう奨励できればと
願っています。

この二〇二四年に救世軍
が活性化するために、神
様が特別な方法で動いてく
ださることを祈り求めま
す。私たちの救い主であり
友であるイエスが、私たち
に奇跡的な恵みを与えてく
ださり、一人ひとりがそれ
を経験できるようにと祈り
ます。神があなたと次の世
代の人々を、イエスを信じ
る者、ジュニア・ソルジャ
ー、大人部兵士となるよう
励ましてくださいますよう
に。救世軍の士官として召
される者たちが起こされま
すように。次の世代に感化
を及ぼすために最も良い方
法を神が示してくださいま
すように。

二〇二四年に神の恵みが
あなたに満ち溢れ、その恵
みがすでに築かれている人
と人とのつながりを通して
分かち合われていきますよ
うに。

私が若い頃から愛唱して
いるコーラスの内容を最後
に紹介します。

私たちの後に来るすべて
の人が、私たちに忠実さ
を見いだせますように。
私たちの残した足跡が、
彼らを信仰に導きますよ
うに。

私たちの生き方が、彼ら
を従順に導きますように。
私たちの後に来るすべて
の人が、私たちに忠実さ
を見いだせますように。

神の御名があがられま
すように。

連載 聖潔の流れに立つ 第三十回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

九、ドイツの視察旅行終え帰英

ウエスレーは約三カ月間、ドイツの各地の視察をし、一七三八年九月十六日にロンドンに戻った（三十五歳）。ドイツでの滞在は、彼の眼界を拡大した。

彼は燃えるような伝道心を抱いてロンドンに着いた。彼はツインツェンドルフ伯とは違った光を見ていた。モラビアン派の「神秘主義」や、当時の英国の「啓蒙主義」は、ウエスレーにとっては光ではなく、光のように見えたり、また光と思われたりする一種の闇に過ぎなかつた。聖典を尊び、神ご自身を喜び、人を愛し、敬虔を旨とし、信仰によって救われるとする福音的信仰理解は、燃える心を彼に与えた。

ウエスレーの運動はこの時点では、国教会の中でおこなわれたのであって、彼は国教会から出ることを考えてはいなかつた。彼は善事に習熟する道を選んだが、決して狂信的ではなかつた。神と人との関係を徹底的に人格的な関係として把握していて、万人救済主義に立ち、「聖書の聖潔」をイギリス全土に広め始めた。

ウエスレーはある手紙の中に、啓示と理性との関係に触れて、「理性を放棄することは宗教を放棄することである。宗教と理性とは、双方、相伴（あいともな）っていくものであって、すべての反理性的な宗教は偽りである」と述べている。彼によれば、「信仰とは理性的根拠に

立って、ある真理を承認することである」と理解している。

ウエスレーは、モラビアニズムがこの辺に幾分か抵触すると見ていたのである。ウエスレーの理性は福音に根ざした理性である。キリスト教の真理は理性の限界を超えた要素をもっている。啓蒙主義の合理精神だけでキリスト教を理解しようとした当時の英国は、懐疑と理性の鈍光に陥っていることを、ウエスレーはモラビアニズムから教えられていたのである。

「啓蒙主義」の中に見られる理性だけが人生のあらゆる問題に答えることができると見なした概念は、神論から汎神論や無神論へ移っていく傾向をもち、神の啓示の必要性も超自然的な思想をも拒否する危険性があつた。理性は啓示の理解を助けるだけであり、啓示の侍女であるとウエスレー等は理解している。

一方、比較的健全ではあるが、モラビアニズムの中に見られる「神秘主義的傾向」には、注意を怠らなかつた。幻、失神、予言能力、特別な霊の賜物、超自然的認識など狂信的傾向に陥ることを恐れた。

理性主義に見られる「智」及び神秘主義に見られる「情」の両立は難しい、ということをし、夏目漱石は著書『草枕』の冒頭でうまく表現している。

「智に働けば角が立つ。情に棹（さ）せば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」

すなわち、「智」を過大評価すると、その時代の流れの中で、人間関係の上に妨げとなるような、非妥協点が目立つようになる。一方、「情」という人間関係が深まるにつれて高まってくる温かい感情は、聖書が離れて人の心の情愛に重きがおかれてくる。こうして、福音的でなくなることを私たちは知っておく必要がある。ウエスレーは、極端な感情主義を戒めているが、内的な恩寵の経験を大切なこととしている。

隣人に親切で、夫婦相和し、親子の情深きをもって「完全に近いクリスチャン」と錯覚するようにになると、福音から外れてくる。「智に働けば角が立ち、情に棹

させば流される」—これは人間の弱いところであり、感情主義や神秘主義は、低劣であるならばイエスの霊を受けることはできなくなる。

十、メソジスト運動の発端

ロンドンに戻ったウエスレーは、久しく会わなかつた弟チャールズと面会した。互いにうれしかっただろう。翌日よりウエスレーは活動を始め、ロンドンとオックスフォードにとどまり、機会あるごとに伝道した。ウエスレーは他の教職者たちが顧みなかつた刑務所をしばしば訪れ、囚人たちを慰問し、死刑囚にも最後の愛餐を分かち与えた。

一七三九年にはブリistolにあるメソジストのチャペルを本拠地として救霊運動が開始された。当時の英国を精神的に更生させたのがこのメソジスト運動であり、華美、贅沢、淫蕩から社会を救った。

年の暮れを迎え、十二月十二日、米国から帰英していたホイットフィールドに会った。ホイットフィールドはジョージアにおける伝道に成功し、植民地住民は彼を慕っていた。だが、彼自身はウエスレーほどに業績を残さなかつた。とは言え、アメリカ大覚醒の触媒の役を果たしたのであつた。帰英していたのは伝道資金を集めるためであつた。彼の英国滞在が長引いている間に、ウエスレーとホイットフィールドは協力して救霊運動を展開するにいたつた。彼らは知らず知らずに既成教会を離れて、一個独立のメソジストなる集団を形成する運びになったのである。

その頃、ホイットフィールドは説教者として知られるようになった。

メソジスト運動の萌芽はウエスレーの回心によって、彼の霊魂のうちに根強く植えつけられた。この回心の経験は「神の霊が心の中にもたらす変化であつて、その時には、世につける愛は神の愛に、全人類に対する無私の愛に変わった」とウエスレーは述べている。ホイットフィールドもその体験をもっていた。

(続く)

集会 報告

召天者合同記念会 クリスマスの夕べ

2023年10月14日(土) 午後2時 多磨霊園

2023年12月1日(金) 午後7時 山室軍平記念ホール

●召天者合同記念会

今年、5年ぶりに参加者の制限のない対面での集会開催となり、秋晴れのもと多くの方々が集われました。ジャパン・スタッフ・バンドの奏楽で開会し、伝道事業部長石川和男少佐の司会で進められました。司令官スティーブン・モーリス大佐が開会の辞を述べ、人事・教育部長添田美和少佐が召天者名簿を朗読しました。西村和江大佐補が代表献花をした後、書記長官西村保大佐補がヘブライ11:13～16から「地上ではよそ者であり、仮住まいの者」と題し、人生の道りは平坦なことばかりではないが、苦難の中にも信仰を抱いて、約束された天の御国をめざし進むよう



メッセージしました。吉田真中将が祈りと祝祷をし、福山小隊の田辺真理子オルガニストが遺族代表の挨拶をしました。最後に参加者が献花をし、散会しました。(参加者184人)

士官墓所前での合同記念会に先立って、午前10時10分からは青山霊園立山墓地、午後1時から多磨霊園社会部墓地、午後1時15分から救世軍人墓地にて小集会をし、ご遺族、関係者の方々がそれぞれの場所に集いました。また同日午前中には、救世軍人墓地にて4人、士官墓所にて2人の方の納骨式がおこなわれました。



社会部墓地



救世軍人墓地

●クリスマスの夕べ

コロナ禍の年月をはさんで3年ぶりに、対面でのクリスマス集会がおこなわれました。集会開始前から本営玄関前にはキャンティーカーが横付けされ、本営職員、小隊士官、戦友により、通りかかる人たちにスープの配布がおこなわれました。また、本営隣のコーヒーショップ・ドトールとの共用屋外スペースでは、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)のアンサンブルがクリスマス・カールを演奏し、集会をアピール。同時に、ホールの中では本営職員の花崎拳さんのサキソフーンと森園子さんのピアノでカールが次々と演奏され、スープを受け取った人が音色に惹かれてホールに入ってくる姿も多く見受けられました。

定刻、東京東海連隊長中島美和大尉の司会で第一部の集会が開会。小谷野みぎわ唱歌隊長(京橋)と勝笹隆大尉(財務管理部)によるクリスマス・ストーリーの朗読と、花崎さん・森さんの演奏、ジャパン・スタッフ・ソングスターズの合唱、JSBの演奏で集会が進められました。コミュニケーション部長山谷真少佐は、暗闇に輝く希望の光はイエスご自身であり、その光を受けた一人ひとりも光となることができる、とメッセージ。出入り自由というリラックスした雰囲気の中、会衆も共にカール



「きよしこの夜」の会衆賛美を導く司令官夫妻



を歌い、クリスマスを待ち望むひと時を過ごしました。

その間も会場の外ではスープサービスが続けられ、多くの方が温かい飲み

物を手にしていました。キャンティーカーは、災害被災地などでは活用されてきましたが、街中で人々の目に触れることは近年ほとんどなかったもので、この時、救世軍の働きの一部を見ていただく良い機会となりました。

ホールの中での集会が終わると、第二部として社会鍋のアピールが本営前の屋外スペースでおこなわれました。JSBがカールを数曲演奏し、社会福祉部長石川一由紀少佐が社会鍋の歴史とその働きを説明しました。週末ということもあり、人の流れが途絶えない中、多くの方々にクリスマスの喜びを届けることができました。

(会衆107人、スープサービス180食)

集会報告

司令官及び軍国女性部会長による 東京東海道連隊 東海道地区キャンペーン

2023年11月5日(日)、12日(日)、19日(日)

11月、東海道地区のキャンペーンは日曜日ごとにおこなわれました。

5日(日) 静清小隊。司令官スティーブン・モリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モリス大佐を迎えての東海道地区キャンペーンは静清小隊から始まりました。聖別会、昼食会での恵みと和やかな時の後、午後から、清水キリスト者共同墓地の小隊納骨堂の前で、献花の時をもちました。多くの方の名前が刻まれた「墓誌」を通して、現在の静清小隊を顧みる時でした。(聖別会13人、恵の座4人、昼食会9人、墓前献花8人 小隊報)



12日(日) 浜松小隊。司令官及び軍国女性部会長を迎えて聖別会をおこないました。軍国女性部会長が勧話をし、司令官はヨハネ1:1~5の御言葉より「はじめに言葉があった」と題してメッセージをしました。

聖別会后、小林早苗少佐の司会により歓迎昼食会をし、自己紹介と短い証言の時をもちました。(会衆11人 小隊報)



19日(日) 名古屋小隊。祈祷会に続き、聖別会をおこないました。席上、子どもの祝福の時をもち、出席した4人の子どもたちを大竹美菜子青少年部曹長が紹介し、ウェンディ大佐がお祈りしました(写真10ページ)。司令官がヨハネ1:35~42から「アンデレの最優先」と題してメッセージをしました。午後は、女性部主催の交流会をおこない、ウェンディ大佐がパワーポイントを用いてアメリカのクリスマスの過ごし方を紹介し、お茶を飲みながら、歓談しました。その後、近くの徳川園を散策しました。

司令官の就任以来、初めてのキャンペーンで、普段来られない方や新しい方も出席し、和やかな交わりがもた

れ、祝福された一日となりました。(祈祷会21人、聖別会32人、愛餐会22人、交流会22人、散策14人 小隊報)



- ①静清小隊
- ②浜松小隊
- ③名古屋小隊
- ④名古屋小隊 徳川園散策

➤ 小隊を会場におこなわれている不登校児支援「パルク」による働きの様子等を伺い、共に祈りました。

22日(日) 一八幡小隊特別聖別会を指揮。下士官任命式がおこなわれ、藤田忠尚大人部書記と、中川みち小隊女性部書記が新たに任命されました。藤田忠尚書記が、今までの信仰の歩みを振り返りつつ、真実な証言をしました(『ときのこえ』1月1日号に掲載)。有志によるトーンチャイムの演奏は、心を合わせ、主を賛美するものでした。続いて軍国女性部会長は「味わい、見よ、主の恵み深さを」(詩編34編)と勧話をしました。司令官は「預言が示す神の主権」(エゼキエル38:17~23)と題してメッセージをし、信仰を励ましました(15人)。午後は、藤田書記の司会で久しぶりに昼食会をおこない、続く懇談の時は、村上イズミ家庭団会計が焼いたパウンドケーキ

を味わいながら恵みの時をもつことができました(14人)。また、この聖別会には高知小隊も配信視聴参加しました(視聴:午前3人、午後2人、平日録画視聴2人、合計7人)。

期間中、西日本連隊長本村大輔大尉、連隊女性部書記本村いずみ少佐が随行し、集会や訪問での恵みとともに、各地を巡回しながら町の様子や地域に住む人々の暮らしを感じる良い機会となりました。(連隊報)

〈写真〉

- ①岡山小隊に集った皆さん ②高知小隊にて
- ③明日葉のスタッフと ④福山小隊 下士官任命
- ⑤豊浜学寮プラスバンド部の子どもたちと
- ⑥福山小隊 下士官永年勤続章
- ⑦八幡小隊 下士官任命 ⑧八幡小隊に集った皆さん

集会報告

司令官及び軍国女性部会長による 西日本連隊 中国四国九州地区キャンペーン

2023年10月15日(日)～16日(月)、20日(金)～22日(日)

まだ夏のような暑さも残る気候の中、司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐による秋の中国四国九州地区キャンペーンがおこなわれました。通訳者として山谷真少佐が随行しました。

15日(日)一岡山小隊・高松分隊合同聖別会を指揮。岡山小隊の戦友と共に、高松分隊から兵士、士官が出席しました。司令官は「イスラエルを聖別する主」(エゼキエル37:24～28)と題してメッセージをしました(19人)。お昼は岡山小隊での久しぶりの昼食会となり、出席者のそれぞれのひと言から、温かい交流の時となりました(16人)。午後は高松に移動し、夕方、士官方との懇談の時をもちました(5人)。

16日(月)一高知小隊では玄関ホールに展示された写真から小隊の歴史を振り返り、建物内外を見学。「歓迎愛さんと交わりの時」では郷土料理で交わりを深め、続いて「祈りの時」をもちました。安井晃軍旗軍曹が今日は恵みの時であることへの感謝と希望の証言をし、全員が自由に祈った後、司令官は「私たちは神に造られた作品であり、良い業に励む」(エフェソ2:10)ようにと奨励、祝福の祈りをしました(6人)。

20日(金)一福山駅ビル内の里親支援センター明日葉を訪問。明日葉スタッフによる軍国女性部会長へのインタビューがおこなわれました。福山小隊へ移動し、軍友の藤井隆司さんを訪問し家庭集会をおこないました(5人)。夕方からは心霊会を指揮。軍国女性部会長による勧話(エフェソ5:1～2)に続き、下士官任命式がおこなわれました。田辺真理子オルガニストが、青少年部曹長の新任命を受け、併せて下士官永年勤続章の授与がおこなわれました(西江章曹長55年章、西江喜久美家庭団書記55年章、大部津留子会計50年章、田辺真理子青少年部曹長30年章、瀬原愛子楽隊員20年章)。司令官は、「預言されたゴゲ今起きている出来事」(エゼキエル38:17～23)と題してメ



ッセージをしました。集会後は夕食会で、交わりを深めました(13人)。

21日(土)一豊浜学寮が参加する地域の「ビューティフルアイランド祭り」で、豊浜学寮の茶道部の野点でお茶を楽しみ、ブラスバンド部による演奏を聴き、職員の働きを見ることができました。昼食後に施設へ移動。見学をして、お祭りから帰ってきた子どもたちと交流しました。呉地区の施設を通りながら広島小隊へ移動。広島

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

京都小隊

●本田路津子コンサート～
ご一緒に歌いましょう～

2023年9月30日(土)
午後2時から、クリスチャン音響会社エムエージー

の主催で京都小隊会館を会場として開催されました。本田路津子さんにとって、今回は久々のコンサートとのことでしたが、デビュー当時のヒット曲「秋でもないのに」、「風がはこぶもの」のほか、「このままの姿で」、「アヴェ・ヴェルム・コルプス」など全11曲を熱唱されました。



曲の合間には、デビュー当時のこと、渡米をきっかけにクリスチャンになったこと、そして帰国後はゴスペルシンガーとして活躍されている

ることを証しされました。

会場にはフォーク歌手時代からの路津子さんのファンの方々、近隣の方々、他教会のクリスチャンの方々が集い、「見上げてごらん夜の星を」「一人の手」「あなたの平和の」を一緒に歌いました。アンコールにも応えてくださり、大盛況のコンサートを閉じました。(聴衆70人)

●韓国軍国から士官来隊

11月19日(日)の聖別会に、韓国から二人の士官が出席されました。金珠蓮大佐補と馬鎮英大佐補は、15日～17日に大阪市で開催された第11回NCC女性委員会主催 在日・日・韓連帯交流会議に委員として出席していました。聖別会后、連隊長本村大輔大尉の通訳で、スマホを通して韓国の救世軍と交流の時をもちました。



大森小隊 ●ミニバザー

11月3日(金・祝)、4年ぶりにミニバザーを開催しました。地域の皆様と喜びを共にしました。



ミニバザーを終えて感謝!

前橋小隊 ●バザー

10月7日(土)、8日(日)に、恒例の秋のバザーを開催しました。市の「前橋まつり」で賑わう商店街に声をかけ、60人以上の方が小隊に立ち寄ってくださり盛況でした。



バザー終了時、奉仕者皆さんで

広島小隊

●召天者合同記念聖別会

11月19日(日)におこないました。藤井千明大佐補の司会のもと、筒井恵子家庭団書記が召天者42人の方々



を覚えて名簿を朗読しました。藤井健次大佐補がテサロニケー4:13～18から、「再会の日を目指して」と題して御言葉を

取り次ぎました。昼食会後には車で広島キリスト教墓苑に移動し墓前礼拝をおこない、7人が参列しました。

<p>〈ご案内〉</p> <p>初野戦</p> <p>—社会鍋募金のお礼と活動報告—</p> <p>1月2日(火) 13時30分</p> <p>東京・上野公園力エルの噴水</p>	<p>2月14日</p> <p>レントに入る</p>
--	--

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

西新井小隊

●召天者合同記念聖別会
及び開戦90周年記念集
会

西新井小隊は、2023
年6月19日に開戦90

周年を迎えました。10月29日(日)に、2023年度召天者合同記念聖別会及び開戦90周年記念聖別会を、司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の指揮で開催しました。当日は朝からあいにくの雨模様となりましたが、集会前の9時過ぎには雨は上がり柔らかな太陽が差し込みました。数日前に完成した外部掲示板や90周年記念の小隊年表、思い出の写真パネル、杉本勝義会計手作りの旧会館模型が



↑杉本会計手作りの旧会館模型

出席者を出迎えました。

司令官の説教に^{こた}えて恵の座で祈る人々の光景に、「世代から世代へ」信仰の財産が受け継がれていく瞬間を見ることができました。

続く記念愛餐会も感染症拡大に配慮しつつ、喜びと祝福に満ちたひとときでした。(記念聖別会27人、記念愛餐会23人 小隊報)

士官志願者部・霊的生活成長部

●秋のリトリート

11月3日(金・祝)～5日(日)、静岡県裾野市「聖心会裾野マリア修道院(黙想の家)」を会場に、副伝道事業部長石川節子少佐、横浜小隊士官鈴木智博大尉をゲストに迎え、おこないました。

各プログラムは「嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう」(詩編84:7)をテーマに、1日目は午後に、士官志願者部長勝笹実香大尉が開会礼拝を導き、夜には、賛美の時に石川節子少佐が証しし、霊的生活成長部長ダニエル・テンブルマン・トゥエルズ少佐がバイブルスタディを導きました。

2日目は午前、石川節子少佐が黙想と散策の時を導き、午後はレクリエーションとして温泉や美術館での鑑賞を楽しみました。夜は賛美の時に鈴木智博大尉が証しし、ダニエル少佐がバイブルスタディを導きました。3日目の聖別会は、勝笹実香大尉の司会で賛美と証言の時も

たれ、参加者一人ひとりが受けた恵みを証しました。その後、鈴木智博大尉が「弱いこの足に」(マタイ14:22～33)と題して御言葉を取り次ぎました。

参加者それぞれが、祈りつつ過ごす恵み、御言葉に聴く恵みを味わい、豊かな交わりの時をもつことができました。皆様のお祈りに感謝いたします。(参加者9人)



女性部

●アジア教会婦人会議日本委員会(ACWCJ)一日研修会

11月17日(金)、山室軍平記念ホールを会場に、YouTubeによるライブ配信と併用しておこなわれました。「神の地球を守るわたしたち」の主題のもと、コロナ禍後4年ぶりの対面での研修会に、7教派から79人が集いました。軍国女性部書記西村和江大佐補が総合司



西村和江大佐補



渡邊さゆり師

会をし、韓国の女性たちが作成した式文に沿って礼拝し、細井留美師(日本バプテスト連盟東京北キリスト教会牧師)が説教をしました。続いて、「アトウトウミャンマー支援」の共同代表を務める渡邊さゆり師(バプテスト同盟牧師)からの「神の創造への小さな応答～アトウトウミャンマーから学ぶ～」との発題では、ミャンマーのための祈禱会と支援の働きが紹介され、現代社会に広がる不寛容に対してどう向き合っていくかと問われる時でした。

また、台湾で11月5日(日)～8日(水)に開催されたACWC第17回大会に出席した委員からの報告もありました。アジア13カ国と国際本部から66人が集い、良い交流がなされたということでした。なお、「アジア教会婦人会議」は2024年4月1日より名称が「アジア教会女性会議」と変更されます。

(オンライン配信視聴回数502回 12月6日現在)

ユナイテッド
uniTed2023

2023年11月18日(土)に東京基督教大学で、超教派の青年宣教大会「uniTed2023」が前年に続き開催されました。これは青年クリスチャンがどのように職業選択していくかをテーマにした大会です。約40の教団、キリスト教関連団体が参加し、救世軍からは、医療部と士官学校が参加しました。各団体がブース出展をし、活動紹介をおこないました。集会の中では、青少年部長朝澤義人大尉が救世軍をアピールする機会もありました。



方々からは「こういう交友の時間が欲しかった」「わたしも会員になりたい」などの反響がありました。



①②交友会入会式 7人の新入会員を歓迎しました
③独唱した対馬さん ④ウェンディ大佐のメッセージ

YP (青少年部)・ファミリーニュース

名古屋小隊

●子どもの祝福

11月19日(日)、司令官キャンペーンの聖別会席上でおこない、出席した4人の子どもたちを大竹美菜子青少年部曹長が紹介し、ウェンディ・モーリス大佐がお祈りしました。



NEWS!!
NEWS!!

医療従事者
交友会

各地のニュース!!

●例会の開催

2023年11月24日(金)、ブース記念

老人保健施設グレイスを会場にして4年ぶりの例会がおこなわれました。医療と介護に携わる32人が参加し、入会式では医療従事者交友会会員として新しく入会された7人の方を歓迎しました。続いて看護学生の対馬梨奈さんが独唱し、医療従事者交友会会長ウェンディ・モーリス大佐がマルコ1:29~34より「癒しの手という素晴らしい賜物」と題してメッセージしました。

自己紹介の時間では、「医療・介護従事者同士だからこそ話せること」を「安心して話せる」という点を大切にしながら過ごしました。参加された皆様は心の内を話され、お互いを知る貴重な時間となりました。最後に医療部長西村和江大佐補がお祈りをして終了。参加された

京橋小隊

●クリスマス・カフェ

女性部主催で11月26日(日)、12月10日(日)の午後、おこないました。11月はクリスマスオーナメントを、12月は伊藤明子家庭団書記を講師に、クリスマスのフラワーアレンジメントを皆さんで作りました。緑の香り良いすてきな作品ができました。





災害対策室レポート

● 第二回災害対策室講習会

2023年10月16日(月)～18日(水)、初日は仙台小隊シャロームチャペル、二日目と三日目はTKP ガーデンシティ仙台を会場としておこないました。三日間の対面参加者は16人、初日のオンライン参加者は8人でした。

一日目の開会集会は仙台小隊士官眞鍋嗣道中尉の司会で進められ、社会福祉部長石川一由紀少佐の挨拶の後、社会福祉部の岡本貴仁少佐が、マルコ12:29～31を聖書朗読(オンライン)、災害対策室長藤井健次大佐補が、「最も大なるもの…愛すること」と題して説教、藤井千明大佐補(災害対策室)が祈禱を献げました。

講演①は、「これまでの活動から見る災害救援活動の現状」と題して、日本の救世軍に残されている資料を基に、過去から現在に至る災害時の救世軍の救援の様子を、石川少佐が紹介しました。引き続き、堀浩明災害対策室長補佐が、「日本軍国における災害救援活動の整理」と題して、災害救援活動の意義、国内における制度上の位置づけ、軍国の組織内における位置づけ、災害救援活動従事者の要件、整理が必要と思われる事項を要点として、「宗教法人救世軍『規則』…公益活動を行う…」などを引用しながら説明しました。ティータイムには、細貝のぶ江少佐(関東東北連隊女性部書記)の手作り救世軍ドーナツとコーヒーが提供されました。講演②は石川少佐より、救援活動に充てられる資金、HIVE(万国本営のポータルサイトで、地域開発や災害救援の提案、承認、結果報告等をまとめるもの)、RR(緊急対応)、国内資金、社会鍋資金の説明を受けました。

二日目からは3グループに分かれて意見交換をしながら進めました。グループワーク①では、藤井健次大佐補が阪神淡路大震災(ボランティア元年)、関東東北連隊長 細貝信義少佐が東日本大震災の救援活動より、それぞれの当時の風景を写真や地図で説明、参加者からの実体験も分かち合いました。

グループワーク②では、石川少佐より、青森県の鯉ヶ沢における救援活動について、海外資金をどのように取りつけるに至ったか、また救援

活動従事者とどのような連携をしたのか、資金による活動報告のために支援後の現地調査に入り、さらに必要な支援が見つけれられたことなどが紹介されました。

グループワーク③では、吉田有明日葉センター長が、東日本大震災から救世軍独自でおこなわれた救援活動と、他教会や他団体と協同する救援活動へと新たな流れが生まれてきたことを説明。また、教会が地域支援、災害救援に重荷をもつようになり、救世軍は地域教会と協同できるようになり、救援活動の可能性が広がった結果、ここ数年の広島、岡山、久留米、秋田などの水害地域に、協同で救援活動をすることができたこと、これらの資金が救世軍から提供されていることも活動の利点になっていることが報告されました。グループワーク④では、資金を調達するための救援計画書(今回はHIVE)をどのように記入するのか、鯉ヶ沢の実例をもとに、英文のシートを日本語に翻訳しながら項目ごとに整理しました。夜の祈禱会は、細貝のぶ江少佐の司会で、最後に細貝信義少佐が祈りを導きました。

三日目は、司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐、石巻クリスチャンセンターのスティーブン・中橋師、アン・中橋さんご夫妻も参加しました。最後のグループワーク⑤では、3グループそれぞれから、玉井芳樹職員、石川実職員、石坂清太郎職員が感想や学んだことなどを発言しました。その後、前日の救援活動計画書を、当日参加の4人からも意見をいただきながら再度整理し、日本語にまとめ完成させました。

閉会集会は、眞鍋恵中尉(仙台)の司会、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の勧話、細貝のぶ江少佐が聖書朗読、司令官スティーブン・モーリス大佐がメッセージ、最後に閉会祈禱を献げました。

講習会のオプションとして、午後からは災害対策室のメンバーを中心に、3.11支援先の「きらら女川シーパルピア女川」、「女川向学館」を訪問させていただきました。また、翌日の19日(木)は、仙台小隊で今回の講習会の振り返りと、2024年の災害対策室講習会について話し合い、午後に散会しました。(災害対策室報)



講習会参加者。司令官夫妻、中橋師夫妻と共に

清瀬小隊

●八十周年記念集会

2023年5月21日(日)、吉田眞中将、かほる中将を



ゲストに迎え、記念聖別会をおこないました。下士官永年勤続章の授与もなされました。伊藤和穂書記が証しし(下記)、吉田眞中将がフィリピ3:12~17節から「後ろのものを忘れ前に向かって」と題してメッセージをしました。(会衆55人)

〈証言〉

清瀬小隊八十周年にあたり

清瀬小隊 伊藤和穂

神様の恵みで清瀬小隊で五十年の信仰の歩みをさせていただいた者として、少し古い話をいたします。

一九三九年三月に「救世軍清瀬療養園」が開設されました。園長の岩佐倫

中佐は医師であり事務長であり、相談室長であり、士官であったことを思うと、開設当初から神の御言葉が語られ、祈りをもって医療がなされ、魂の救いの働きもおこなわれていたと思います。様々な事情を考えあわせ、一九四二年五月二十六日を当小隊の開戦日とみなすこととなり、今日があります。現在の会館が献堂されるまでの四十年近い年月は、「病院小隊」として、清瀬病院や施設職員、その家族、患者さん方を対象とした聖別会、救霊会、聖書研究会、祈祷会、日曜学校、葬儀や結婚式、バザーも、すべて病院の会堂(学習院初等科の講堂を移築したもの)でおこなわれていました。現在のホスピス病棟があるあたりです。

私が、救世軍士官の両親の任命に伴い、この敷地の中で住み始めた一九七三年頃は、まだ雑木林の中に病院や職員住宅などがあり、軽井沢のような感じの場所でした。都内から引越してきてきた中学生には田舎という感じがしました。住宅は、結核回復者が住んでいたコロニーと言われる長屋のような古い住宅でした。(恵泉寮と言われ、今の恵泉ホームと「いずみ」のつなぎ目あたり)にありました。恵泉ホームの名前はそこから聞いています。

当時の院長と副院長は、二階屋の住宅を分けて住まわれていたと思います。古い二階建ての大きな旧看護婦寮もありました。当時の小隊長は病院事務長と兼務の伊藤孝男中佐でした。患者さんのIさんは祈りの人で、全国に信仰の友がおり、シーツがボールペンで汚れるほど手紙を書かれていますとお聞きしたことがあります。Kさんは長い廊

下を鐘を鳴らして聖別会の開始を知らせておられました。清瀬バンドが誕生したのもこの頃です。わが家の八畳ぐらの玄関でバンド練習が始まりました。鈴木肇楽長と数名で始まり、その後メンバーが増えていきました。ジャパン・スタッフ・バンドの鈴木前楽長、現在の引地正樹楽長も清瀬小隊の兵士であることは誇りです。

一九七五年、私の父である池田忠隆少佐が事務長の時、北海道や東北の高校へ看護学生の求人に行き、准看護学校に通う若い方たちが看護婦寮に入寮されました。看護婦のM軍曹の部屋に学生さんたちが集まり、食事をしたり話をしたりする中で信仰に導かれる方たちが生まれました。士官候補生のブリゲードなどもおこなわれ、小隊が活気づき熱心に祈祷会もおこないました。地域への伝道をしていこうとの機運が高まり、病院から離れ清瀬小隊としての会館を建てようということになりました。どこに小隊を建設するか、いろいろ検討されたようですが、一九七七年に自省館と恵泉ホームの働きが始まり、病院と施設の真ん中ということ、一九七九年十月、現在の場所に小隊が建設されました。

下士官、兵士、戦友の皆さんは、十分の一の月定献金に加えて建築のための献金を献げられました。厳しい話だっただけですが、皆さんが燃えて献げてくださったのだと思います。多くの方々の方々の献身と感謝により、この会館ができました。今年で四十四年になります。

それ以後、自省館、恵泉ホームの入所者の方々も礼拝に出席できるように

なりました。また地域の方々、近隣のマンションの子どもたちも日曜学校に来るようになりました。一九八〇年代から九〇年代にかけて日曜学校は非常に盛んで四十人近い子どもたちが集まっていた。様々な活動・集会をおこなう中で、第二ホールの必要を皆が願い、一九八九年十一月、これも皆さんの献金で第二ホールが落成しました。小隊会館も、第二ホールを建てるためにも、家庭団の力は不可欠でした。借入金返済のために、年二回のバザーを数年おこないました。家庭団の皆さん全員で奉仕をしました。時間や労力、知恵やアイデア、皆がもてるものを献げて今の小隊があります。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

私たちのために十字架にかかられたイエス様と神様に感謝し、それぞれができる精いっぱい献げ物をして、この小隊の働きが継続されていることを改めて思い感謝します。これまで、二十数名の方が救世軍士官や牧師として献身をすることも感謝です。

病院小隊時代から数えて八十年という年月、それぞれの時代に必要なた材や知恵、献金、多くのものが献げられました。これからも清瀬小隊でしかおこなえない、この世を愛された神様の働き、御旨をつないでいくことが求められていると思います。歴代の三十五人の小隊長とご夫人、補佐の任命を受けられた下士官、病院、自省館、恵泉ホームの管理者、施設長、関係者皆様にご感謝を申し上げ、証言いたします。

〈連載・第24回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(9) この世で生きることへの呼びかけ

(承前) さらに、イエスは弟子たちに「僕は主人にまさるものではないとおっしゃったのです。弟子たちは主がなさったことを心に留めて、彼らも僕の精神で生きようになりました。」

二千年後の今も、教会は主人の言葉に聞くべきです。人は皆、権威を与えられると自分が他より重要人物になったと思いがちです。初代教会ですでにその問題が起こっていたのですから(ヤコブ2・3)、わたしたちが同様な間違いをしても不思議はありません。このことに気づいた委員会のメンバーたちは、「救世軍のあらゆる立場の指導者たちが、僕として聖書の模範に従う指導者であるよう」勧めています。また、いかに組織や階級、体制が効果的に、僕の精神や共同体の霊性や救世軍の働きの前進を、強め支えているか、再評価するべきだと勧めました。

注目すべきことは、この勧めが「あらゆる立場の指導者たち」に向けられていることです。幹部士官に課せられている霊的な任務は、どの小隊、その他救世軍の働きの指導者にも同様に課せられています。そして小隊での交わりの細部及び全体において、「わたしたちの交わりの中で、節制とキリストに似た生活はどうあるべきなのか」と問う時に、聖霊が働く余地がそこに生まれ、お互いの交わりはキリストが望まれた僕としての質に達することができるでしょう。

善いサマリア人のたとえ(ルカ10・30～37)では、宗教的な人々が自分たちの信仰や礼拝を最優先させることにより、いかに自分たちの基準や常識、また習慣にとらわれやすく、現実世界から離れてしまいやすいかを示しています。体裁を大事にし、正しい時に正しい事をおこなおうとするあまり、神様が本当に求めておられるようにすることが妨げられてしまうのです。

律法の専門家は聖書をよく知っていました。イエスに対して、永遠の命を得るために必要なこととして、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」ということだと述べています。しかし「サマリア人」という言葉を聞いた時、それがユダヤ人にとっては特別に見下していた人々だったために、彼は理屈では正しいとわかっているにもかかわらず、実際にそれを受け入れることができませんでした。今日のクリスチャンはこのように敢然と立ち向かわなければなりません。

奉仕の賜物とはどんなものであるかが広く知られるようになっていく時代においては、選別するという罫に陥りやすいと言えます。神様が与えてくださった賜物を用

いることに意味があるのに、「それはわたしの賜物ではありません」と言い訳をして、僕の精神を遠ざけてしまいます。

パウロは、自分の体を打ちたたいて服従させると述べていますが(コリント9・27)、強いてそうしているのであり、弟子の精神というものは自然に与えられるばかりではないのです。

今日では、形が非常に大切ですが、イエスは全く気になさいませんでした。イエスは「無」に等しいものとなられたとパウロは述べています。イエスはわたしたちの世に、この混沌の中に、わたしたちと同じ立場に、そして最終的にわたしたちと同じ場所においてになりました。主は十字架を担ってくださいました。わたしたちと全く同じになってくださいました。神の形に似せて造られたわたしたちは、イエスを見上げるよう、そしてイエスがわたしたちと似ていることを知るようにと招かれているのです。『救世軍歌集』(旧・英国救世軍歌集38番)でアルバート・フレデリック・ベイリイ(Albert Frederick Bayly)はこの点を次のように歌っています。

主よ、造られた者たちにあなたの印を押してください。もしもその印を傷つけることがあっても、なお愛してください。

どうぞこの目を上げさせて、御顔を仰がせてください。あなたのうるわしい御心を教えてください。

しかし、一つのことは別のことにつながります。

(9)の冒頭で呼びかけに続いて掲げた確信の言葉にはこうあります。「節制をすることにより、わたしたちが何を第一として生きているのかを証しすることができ、メッセージとして伝えることができます。」さらに、「結果として傷ついたこの世のいやしと救いのために自分を犠牲にすることになり、社会の不正義に向かって預言者的な証しをすること」へと導かれます。それは、単に克己することではなく、何かの行動を起こすことに関わるものなのです!

ウォーレン・ジョンソン(Warren Johnson)は述べます。「奉仕は実践的な伝道です。僕の心で信者たちを助けるだけでなく、もがき苦しむ世の中へ愛の業を届けることです。」また彼は加えて言います。「新しく信仰をもった人にとっては、日々奉仕し伝道する生活へと神様が人々を招いていると理解することは、大きな前進です。神様は他の人々の生活の中でわたしたちを用いようとなさっています。」

これは、マーガレット・ヘイ(Margaret Hay)が発表した社会的聖潔についての論文でさらにテーマとして取り上げられています。彼女は「ロンドンや万国本館の居心地の良い二重ガラスの建物と、マニラやコロンのような場所との間を旅しながら、生活し働いた」ある年を思い返しました。彼女は比喩にはいられませんでした。「マニラでは、狭い道を抜ける車の窓から、ほんの数インチのところに子どもたちの顔がありました。その数日前にはロンドンで、首回りにフリルがついた聖歌隊の服を着た亜麻色の髪をした男の子たちを見ていました。」

(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第10回「腐敗」(2)

救世軍の立場の土台となるもの

(承前) 一誠実さには透明性が求められる

腐敗はしばしば隠蔽いんぺいされますが、神は私たちに光の中を歩むように、自分の行動を明らかあきらかなものとするようにと、求めておられます(ヨハネ3:20、21)。

一神は貧しい人々や周辺に追いやられている人々の申し立てを擁護ようごされる

贈収賄ぞうしゅうわいをおこない、貧しい人々を不当に扱う人々を、神は懲らしめられます(イザヤ1:21~25)。不正行為をおこない、だまし取って、私腹を肥やす人々を主は咎められます(ミカ6:10~13)。

一貪欲と富を追い求めることについて、神は警告される

金銭を偶像視することは墮落の根源です(テモテ6:9、10、ルカ12:15)。マタイによる福音書23章16~25節で、イエスはファリサイ派の人々の偽善を暴露しています。彼らは神殿に献げる富のことを気にかけるが、神殿の霊的な面をなおざりにしていたからです。

一私たちが個人的な聖潔きよめと共同体としての聖潔を求めるよう、神は呼びかけておられる

神は私たちに、個人としての聖潔の生活と、共同体としての聖潔の生活をするようにと、呼びかけておられます。腐敗をしりぞけることは、聖潔の重要な一面なのです(詩編15編)。

一イエスは腐敗に対して毅然きぜんとして立ち向かわれた

イエスの十字架刑は、政治的な腐敗、宗教上の腐敗の結果でした。人々が腐敗に対抗して立ち上がり、弟子としての犠牲を払う時、イエスの模範は人々を励ましてくださいます。

実際的な対応

1. 腐敗に取り組むためには、個人的な行動と、共同の行動、その双方が必要です。救世軍はその組織の中で、透明性と説明責任と正しい管理がおこなわれるように仕事を進めます。救世軍では特にその指導者たちに、最高度の説明責任を果たし、あらゆる形の腐敗の排除に努めるように勧めます。
2. 現行の救世軍の方策、手順、軍令及び軍律は、腐敗、贈収賄、えこひいき、縁故主義などに先んじて手を打つものでなければなりません。
3. 救世軍は、腐敗のない、正義と慈しみという価値観に基づいた、環境の発展を促します。

4. 救世軍は、腐敗の結果として生じたいかなる寄付も受け取りません。
5. 救世軍は、腐敗に関する社会の気づきが高まるように努めます。
6. 救世軍は、腐敗を阻止する法律や執行メカニズムをつくるようにと、地方の、国の、また国際的な法的権限の管轄にいるすべての議員たちに求めます。
7. 救世軍は、腐敗を暴露し、社会を腐敗から解放つ合法的な組織と、進んで協力します。
8. 救世軍は士官、兵士、職員、その働きに参加する人々を訓練する中で、腐敗というものが危険で、油断のならないものであることを理解できるように努めます。実際的な例の一つ挙げると、救世軍の学校や若者たちのキャンプにおいて、腐敗がいかに人の心を蝕むものであるかを青年救世軍人たちに気づかせ、それと戦うように励まします。腐敗と戦う他の方法としては、ソーシャル・メディア、ラジオ、トークショー、教会のグループなどがあります。
9. 救世軍は、腐敗が間違っていることを知り、その根絶のために働くために、あらゆる機会を用いるようにと、救世軍人たちを励まします。私たちは腐敗を暴露する人々を支持します。

(2013年11月大将によって承認)

第11回「死刑」(1)

死刑についての見解表明

死刑とは犯罪の罰として国家によって死に処せられることです。救世軍は、正義が何であるかを定め、それを維持することが政府の責任であることは認め、そのことには刑罰が伴うことも認めますが、死刑の廃止を求めます。

人間の命は神聖なものです。人はすべて、神にかたどって創造され、他と比べられない、固有の価値をもっているのです。犯罪を犯した人たちは処罰を受けなければなりません。それはその人たちの命の尊厳を犯すことのない方法でおこなわれなければなりません。

不当に死刑に処せられたイエス・キリストは、ご自身を罪人と同一視されました。神は、イエスを通して、全人類を贖い、回復させ、すっかり変えようと望まれました。キリストにあって、すべての人が新しい人となることができるのです。

救世軍は、多くの国々で、犯罪を犯し処罰を受けている人々、犯罪の犠牲になった人々、その人たちの家族に仕える働きをしています。そういう経験から、すべての人にとって、その罪が贖われ、その人が変わることが可能であるという確信が強められているのです。救世軍は、犯罪行為の結果に対してなすべきことがあることを認めつつも、それは犯罪者たちのリハビリテーションのためのものであるように、と声を上げているのです。

救世軍は命の大切さに対しては、妥協しないのです。

(続く)



THE SALVATION ARMY INTERNATIONAL

世界の救世軍

●平和のための祈りの呼びかけ

リンドン・バッキンガム大將は、昨年10月、イスラエル、ガザをはじめ、紛争や戦争が起こっている世界中の多くの場所をおぼえ、平和のために祈るよう、世界中の救世軍人に呼びかけました。また、ガザでの紛争における一時停戦と一部の人質解放のニュースがあった11月末にも、大將は、そのニュースを歓迎しつつ、平和と暴力の完全な停止のために祈り続けるよう呼びかけました。「私たちの祈りは、この紛争、そして世界の他の紛争によって影響を受けているすべての人々に送られ続けます。特に、愛する人を失ったり、自分自身が負傷したりした人々のために祈ります。救世軍は平和の実現に尽力しており、中立かつ無党派であるという長年の伝統があります。大將として、私は世界中の救世軍に属する人々に、平和のために祈り続け、良心的に平和を追求し、平和を造り出す者となるよう呼びかけます。」

●ジェンダーに基づいた暴力撤廃キャンペーン

昨年11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」から12月10日の「世界人権デー」まで、救世軍万国本営では「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間の活動」をおこないました。救世軍は男女の平等を重視しており、女性の人権を尊重し、あらゆる形態の虐待、暴力、搾取に強く反対します。万国本営では、大將、万国女性部会長ブロンウィン・バッキンガム中將をはじめスタッフがオレンジ色のバッジを身につけ、この社会的不公正に対する意識を表しました。すべての人がイエス・キリストにある自分の価値と値打ちを知ることができるよう祈りましょう。



財産処分の公告

このたび宗教法人救世軍は、法人規則第26条に定める手続きを経て、下記のとおり財産処分を行うこととしましたので、宗教法人法第23条の規定により公告します。

令和6年1月15日

信者その他利害関係人 各位

宗教法人救世軍
代表役員 スティーブン・モーリス 印

記

処分する財産

(1) 処分する財産の表示

地番：大阪府大阪市西成区天下茶屋1丁目6番27
住居表示：大阪府大阪市西成区天下茶屋1丁目16番8号
地目：宅地
地積：198.34㎡
種類：教会、その他
名称：救世軍西成小隊

(2) 処分の方法：売却

(3) 処分年月日：令和6年1月31日

財産処分の公告

このたび宗教法人救世軍は、法人規則第26条に定める手続きを経て、下記のとおり財産処分を行うこととしましたので、宗教法人法第23条の規定により公告します。

令和6年1月15日

信者その他利害関係人 各位

宗教法人救世軍
代表役員 スティーブン・モーリス 印

記

処分する財産

(1) 処分する財産の表示

地番：大阪府大阪市生野区鶴橋5丁目43番2
住居表示：大阪府大阪市生野区鶴橋5丁目19番地13号
地目：宅地
地積：277.88㎡及び当該地積上に建つ建築物（面積不詳）
種類：教会、その他
名称：救世軍鶴橋分隊

(2) 処分の方法：売却

(3) 処分年月日：令和6年1月31日

救世軍公報
転任
財務管理部付の任を解く
補山室軍平記念救世軍資料館付
三澤直規少佐

二〇二三年十月十日付
司令官

スティーブン・モーリス

新施設長

ブリス記念老人保健施設グ
レイス施設長 高木道人

二〇二三年十月一日付
司令官

スティーブン・モーリス

幹部士官会

2023年10月31日(火)～11月2日(木)、杉並小隊・

総合センター別館(アネックス)を会場に開催されました。全幹部士官が集い、祈りと賛美を献げ、軍国の課題について検討がなされました。



ジャパン・スタッフ・バンド

●神保町ブックフェスティバルでのミニコンサート

10月28日(土)午後1時30分～2時、「神保町ブックフェスティバル」のプログラムの一つとして、JSBは、本営前で「救世軍ブリティッシュプラスミニコンサート」を開催しました。大勢の人が足を止め、演奏を聴いていました。コロナ禍以降、久しぶりのフェスティバルへの出演でした。数日後、このミニコンサートをきっかけにゴスペルハウスを訪ねて来られた方もあったとのことです。



創立者 ウィリアム・ブライス 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

1日(金)、2日(土)の二日間にわたり、クリスマスバザーと併せて開催しました。今回、バザーは男子社会奉仕センター(バザー場)との協力により実施し、二日間で延べ約200の方が来場されました。「カフェ・ブレッシ

上野小隊

●クリスマスバザー及び カフェ・ブレッシング

上野小隊のカフェを3年ぶりに再開し、12月は



ング」も祝福され、約50の方が利用されました。お昼の席は予約が100%になるほどの好評でした。

また、2日の午後は、礼拝堂で「Come & Worship」によるクリスマスコンサートが2回おこなわれ、合計で32人の会衆がありました。(小隊報)



士官学校

●オープンデー 下士官セミナー

2023年10月21日(土)に開催しました。近年、各小隊で地域に根ざした下士官の学びをおこなうことが難しくなっている中、様々な小隊から参加者が集まり、合同でセミナーをおこなう機会となりました。

士官学校オープンデー
「下士官セミナー」
Local Officer Seminar

「人々が、代々に御業をほめたえ
力強御業を告げ知らせますように。」
詩篇145:4-6

10月21日(土) | 10.00 - 15.30

プログラム
受付 9:30AM
奉仕費無料(賛助者のみ)

セッション①
「キリストを映し出す小隊の姿」

セッション②
「下士官に託される役割」

セッション③
「生涯の生徒として」

ワークショップ
(お茶を飲みながらの学び)

講師 中島美和大尉
東京東海連隊隊長

会場 救世軍士官学校
東京都千代田区

お問い合わせ先
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二丁目十七番
電話 東京(03)三三七〇八八一

東京東海連隊長中島美和大尉を講師に迎え、午前中に2つのセッションを実施。1つ目は、「キリストを映し出す小隊の姿」で、中島大尉は、小隊や教会が地域社会だけでなく、普遍的なキリスト教会の一部であり、救世軍が果たすべき重要な役割について語りました。2つ目はより実践的な内容で、「下士官に託される役割」に焦点が当てられました。この日は3つの小隊から7人の下士官が参加し、それぞれの小隊での働きについて話す機会が設けられました。

昼食を共にした後、士官学校長ダニエル・テンブルマン-トゥエルズ少佐が3つ目の「生涯の生徒として」のセッションを導き、生涯の努力として個人の知的・霊的な生活を発展させ続けることの重要性を述べました。最後のセッションはお茶を楽しみながらワークショップという形でおこなわれました。参加者はその日の内容を振り返り、コロナ禍にあってそれぞれの小隊で経験したことを分かち合い、最後にお互いのために祈る時間をもちました。(士官学校報)

杉並小隊 ●柏寿会

12月7日(木)、柏寿会をおこないました。2020年2月以来の開催で、参加者は久しぶりの再会を喜びました。新しい人も加わって、クリスマスを祝い、お食事を楽しみました。懐かしい唱歌を歌い、それぞれが近況を語り、楽しい時をもつことができました。(参加者22人)



2月・スチュワードシップ月間

「管理者に要求されるのは忠実であることです。」
(コリントの信徒への手紙一 4章2節)

兵士献身サンデー 2月4日

日曜学校教師奨励サンデー

2月11日

子どもたちの信仰のため働く教師を覚えて祈りましょう

(取扱支部)

発行日及び定価

発行日 毎月一日発行

福喜版 毎月十五日発行

定価 奇数月十五日発行

福喜版 一部 四〇円

広報版 一部 一〇〇円

クリスマス特集号 十二月一日号

一部 一〇〇円

振替 〇〇一八〇一五 四四〇〇

印刷兼 救世軍

印刷人 代表者 スティーブン・モーリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 株式会社ヒーアンドエス